

# 第98回日本結核・非結核性抗酸菌症学会市民公開講座 「日本の結核予防の礎を創った人々」の司会を務めて



結核予防会  
代表理事 工藤 翔二

6月11日（日）午後、第98回日本結核・非結核性抗酸菌症学会の最後の催しである市民公開講座が、京王プラザホテル・エミネンスホールで開催された。

学会長の加藤誠也結核研究所長の挨拶の後、「日本の結核予防の礎を創った人々」のテーマのもとで、明治から昭和にかけて我が国の結核予防の歴史の礎を築いた5人の方々について、5人の演者が語られた。

最初に、1882年に結核菌を発見したR. コッホの下に留学し（1886～1891年）、1912年に結核予防会の前史と言うべき「日本結核予防協会」を矢野恒太氏らの支援を受けて設立し、1923年には「日本結核病学会」を創設された北里柴三郎先生について、小林弘祐氏（学校法人北里研究所理事長）が話された。

次に、北里先生を助けて「日本結核予防協会」を設立し、1939年「結核予防会」の発足に当たっては、25年の歴史を担った「日本結核予防協会」解散のみならず、自らが設立した「保生会」を解散するとともに、保生会が所有する全財産（保生会館、保生園等）を寄付し、結核予防会発足に尽力された第一生命創業者矢野恒太氏について、渡邊光一郎氏（第一生命保険株式会社 特別顧問）が話された。

次に、日本で初めてBCGワクチンの比較対象試験を行い、X線間接撮影装置を搭載した検診車を開発して、今日の結核予防対策の理念を提唱された今村荒男先生と伝統ある本学会の「今村賞」について、増田國次氏（大阪府結核予防会顧問）が話された。

次に、結核病理学の泰斗であり、初期変化群の病理学的研究によって我が国における初感染発病論の基礎をつくり、病理組織学をもとにした結核のX線分類「岡病型」

を提唱するなど結核診断の道を開かれた岡治道先生について、森亨氏（結核研究所名誉所長）が話された。

最後に、1939年結核予防会創設以来55年にわたって総裁を務められた秩父宮妃勢津子殿下について、結核予防へのご熱意とお人柄を含めて、長年にわたってお傍に仕えられた山口峯生氏（元秩父宮付宮務官）が話された。

本企画は、1923年（大正12）の学会設立から100周年を記念して、加藤誠也学会長によって企画されたもので、「結核予防の礎を創った」5人の方々には加藤会長自ら選ばれた。私は、その方々をどなたに語って頂くかを託された。ご講演をお願いした皆さんには、快く引き受けていただき、ご講演の準備をしてくださった。5人の演者の皆様のご講演を通して、日本の結核予防対策の創成期に力を尽くされた方々の功績が再現され、学会設立100周年を記念するに相応しい、素晴らしい市民公開講座になりました。関係の皆様にご改め御礼申し上げます。🍷



市民公開講座を終えて（左から加藤誠也学会長、小林弘祐氏、渡邊光一郎氏、増田國次氏、山口峯生氏、森亨氏、工藤、尾身茂結核予防会理事長